7

特集 医療アートメイク

リップのアートメイク

永森友美
HAAB BEAUTY CLINIC アートメイク部責任者

リップアートメイクのポイントは，いかに「美しい定着」を得られるか，である．肌への負担・痛みを少なくし，きれいに色を入れていくための技法の習得が重要となる．「美しい定着」には，お客様の唇組織の特徴を踏まえて，色を入れるシェーディングの技法を変えたり，カラーを選択したりする必要がある．また，肌への負担・痛みを減らすため，麻酔をできるだけ使わない技法が注目されており，その技術を習得したのでここで報告する．

はじめに

リップアートメイクは，いかに「美しい定着」を得られるかがポイントとなる．色味の定着は人それぞれで1回でも程よく定着するケースもあるが，原則2回以上の施術が必要となる．そのため，いかに肌への負担・痛みを少なくし，きれいに色を入れていくかが鍵となる．それぞれの唇の特徴に合わせて色の入れ方や針の種類を変えることのできるバリエーションある技術を持っていることが施術者として求められる．

リップアートメイクのデザインのポイント

まず，デザインにあたって，唇の輪郭を取るか取らないか（縁ありとするか縁なしとするか），唇の外側を薄く内側を濃くするかもしくはその逆かをカウンセリングのなかで提案していく．また，色合いの密度の濃さを変えていくか，口紅を塗ったようなフルシェーディングとするかなどお客様との対話のなかで決めていく．リップは，眉やアイラインと比較すると，カラフルで，色のバリエーションが豊富であるため，施術者としても楽しいものとなる．一方で，色の選択が適切でなかったりすると，逆にくすんで見えてしまい，お客様の雰囲気を変えてしまうため，リップアートメイクでは，お客様一人ひとりに合った色の選択が大切である．

また，デザインのポイントとしては，上唇の真ん中をキューピットの弓（Cupid's bow）というが，そのキューピットの弓と人中の関係が大切である．人中が短いと若く見えることが多いため，キューピットの弓のかたちをきれいにすることが1つの鍵となる．唇の黄金比を参考にしつつ，丸みのある約10°以内の角度を持つ唇ラインを作ると美しく見える（図1）．

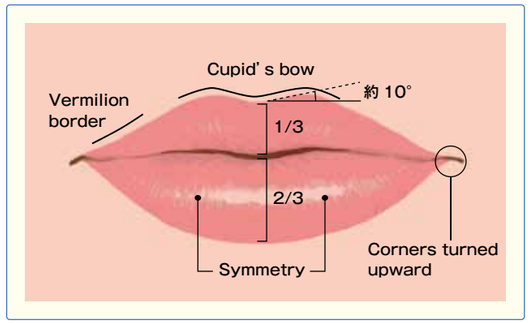

図1 リップアートメイクの黄金比

また，人により，唇のボリュームが多かったり少なかったりする．ボリュームが小さい方ほど年齢を重ねるとより薄くなっていくように見えるため，そういった方にはボリュームを出すことで魅力的な唇に近づく．口角が上がって見えると明るい印象になるため，キューピットの弓とスマイルラインについては，注意してデザインするとよい．

本来はお客様の唇を活かすデザインを基本とするが，バランスを整えるためにオーバーリップにする場合は，1mm以内にする．オーバーリップにより，唇全体にボリュームを持たせることもでき，また，左右差を直すこともできる．ただし，やり過ぎに注意する．唇のかたちについては，お客様本人が気づいていないことが多く，施術中に左右差を指摘すると，「はじめて気づきました」と言われることも多い．

リップアートメイクの手技

リップアートメイクは，他のアートメイクと比較して，技術の種類が多くある．一本針の技法1つとっても，手の動きを変えることで，仕上がりの雰囲気が変わってくる．さまざまな技法があるため，施術者自身がやりやすい方法を選んだり，仕上がりのイメージで変えたりするのがよい．

唇は他の部位と異なり，その角層は皮膚でもなく，粘膜でもない，皮膚と粘膜の間のあいまいな組織となっている．上下で1つの唇，と思いがちだが，上は皮膚に近い組織，下は口腔の粘着組織が延長したものといわれている．そのため，人によって色が違う．

また，皮膚の細胞がはがれて入れかわるターンオーバーは約28日であるが，唇は3～5日といわれている．そのため，アートメイク後，皮剥けするまでが早い．たとえば，眉は施術後かさぶたができ，定着まで1週間程度だが，唇は3，4日でダウンタイムが終了する．

また，唇は皮脂膜ができにくい構造のため，バリア機能が少なく，乾燥しやすい．唇が乾燥していると色がなかなか入らない．そのため，唇のアートメイクの定着に重要なのは，アートメイクの施術前も施術後も，保湿を続ける，余分な角質を取り除くの2つとなる．保湿が十分な唇だと，出血もせず，色も入りやすい．そのため，施術後もそうであるが，ワセリンや専用スクラブを使用して，保湿をしてから施術